IGS 理事会報告

2021 第１回理事会報告

防衛大学校システム工学群　　宮田喜壽
京都大学大学院地球環境学堂　　勝見　武

１．はじめに

国際ジオシンセティックス学会（IGS）における 2021 第 1 回理事会が、令和 3 年 5 月 28 日オンラインで開催された。日本時間で午後 8 時にスタートし、終了したのは日付が変わる 0 時近くだった。参加者は、事務局を含め 30 名だった。

２．理事会の主な議題と最近の話題

2.1　4 年間（2018～2022 年）の活動計画

ユ（Yoo）会長のもとでの活動計画として、以下の５つの柱が掲げられている。

I.　技術委員会の強化と活動の活性化
II.　最新のコミュニケーション・ツールによる教育と知識共有
III.　持続可能な開発や地球規模の課題解決に対するジオシンセティックスの有用性の強調
IV.　会員の交流促進
V.　若手会員の増強

会議の冒頭、上記についての進捗状況が報告された。筆者による補足情報を含めると、その内容は以下のとおりである。

・ I.について：現在、水理、遮水、補強、安定化に関する４つの技術委員会が活動している。国際会議では各委員会による特別セッションが企画されるようになり、大学の講義で活用されることを意図した教育用ビデオが開発中である。

・ II.について：ホームページにデジタルライブラリという新しいコーナーを設け、ジオシンセティックスに関する様々なアーカイブを閲覧できる環境を整備している。その中には、充実化が図られているリーフレット（多言語対応）も含まれる。環境問題への対応が重要になっていることを考慮して、沿岸および河岸の保護や、プラスチック廃棄物に関するビデオも整備している。

・ III.について：ジオシンセティックスの利点を強調するマーケティング・キャンペーンとして、欧州地域会議 :Eurogeo、第 12 回国際ジオシンセティックス会議 :12ICG、アジア地域会議 :GeoAsia で公開セッションを企画している。持続可能性については、学会と関連企業とが MOU をかわすことや、ジオシンセティックスの役割について積極的に情報発信していくことを検討している。

・ IV.について：twitter、facebook、You Tube などのソーシャルメディアを用いた情報発信の重要性が増す中、学会としてそれらを活用する際のガイドラインを作成した。また、ジオシンセティックスに関する教育者を充実させるための EtE（Educate the Educators Program）プログラムの展開を各支部でスタートさせた。支部、個人及び特別会員が学会（本部）に何を期待しているかを調査する準備を進める一方、学会の支持意識を高めるためのアンバサダープログラムの充実化を図っている。

・ V.について：若手会員主体の行事を地域会議で開催するなどを企画している。新しい試みとして、学部・大学院向けの研究テーマのリストを学会が提示する、あるいはジオシンセティックスの研究について大学間連携の一助になるような取り組みを行うことを検討している。

2.2　事務局体制・会員数・経理状況

・クラウス（Kraus）氏が今年 3 月に事務局長に就任した。氏は物理の研究者として経歴をスタートした後、英国外交官、英国王立測量士協会の都市問題担当ディレクターおよび持続可能な都市開発の責任者を歴任してきた。これらの経歴で培った経験を活かして学会の発展に貢献することが期待される。会議では氏より、就任のあいさつが述べられた。

・会員状況として、個人会員 2526 名、学生会員 1159 名、コーポレート会員 168 社が報告された。国別の会員数をみると、トップは南アフリカ 189 名、2 位は我が国 188 名、3 位はフランス 152 名である。ボリビア、グアテマラ、スロベニア、北欧で支部を結成する動きがあることも報告された。

・ COVID-19　の世界的流行を受けて、地域会議や世界会議が延期になっている。改めて各会議の日程が以下のとおり確認された。GeoAsia7：2022 年 4 月 11 日～15 日。EuroGeo7：2022 年 9 月 4 日～7 日。GeoAfrica4：2023 年 2 月 20 日～23 日。12 ICG：2023 年 9 月 18 日～22 日。

・本部の経理状況が報告された。税制や運用方法、そして監査の規則が米国ベースなので、報告及び議論の内容を完全に理解することは難しかったが、バランスシートなどから健全性が維持されていることを確認した。

2.3　委員会関連

各委員会からの報告事項で、主要なものは以下のとおり。

・会員サービスの充実化を目的にしたホームページの更新作業は、7 月末にはひとまず終了する見込みである。

・会員向け、教育者向けの各種コンテンツ、ガイドラインが整備されており、円滑な活動を進めるためのルール作りが進められている。この活動は、著者の一人である勝見をリーダーとする教育委員会を中心に行われている。

・学生および若手実務者によるセッション運営や彼ら／彼女らを対象にした各種コンテスト、学会賞の企画が進められている。

・海洋プラスチック問題が世界的に深刻化している。ジオシンセティックスはその主要因ではないことを明らかにするための調査を中立の立場にある研究機関に依頼することになった。依頼先や調査の詳細はこれから検討される。

・４つの大学講義用ビデオ（英語版）が作成され、IGS のホームページや IGS の You Tube チャンネルでの公開が始められている。

3.4　支部活動関連

各地域代表理事からの報告で、主要なものは以下のとおり。

・アフリカ・中近東では、鉱山を閉山する際にジオシンセティックスを活用する技術の重要性が

高まっている。この技術について、ワークショップやリーフレットの作成が始められている。
・パンアメリカでは、スペイン語やポルトガル語でのオンライン講習会など活動の多言語化が進められている。
・アジアでは、11 月に台湾でジオシンセティックスに関する EtE プログラム（教育者向けの講習会）が成功を収めた。筆者のひとりである勝見が講師として参加した。
・欧州では、新しいリーフレットや持続可能性に関するビデオの作成、電子書籍の翻訳、支部の新設を計画している国などでのオンライン講習会など、活動が進められている。

3.5　調整委員会およびタスクフォース関連

・ IGS は現在 FedIGS（地盤に関する国際学術団体の共同体、国際地盤工学会、国際岩の力学会、国際応用地質学会、IGS で構成）に加入している。他の団体との協力体制も積極的に構築されようとしている。
・ IGS では学術用語の定義に関与しないことが決定された。今後は ISO や ASTM、各国・地域の技術認証団体による定義を尊重することになる。
・デジタルライブラリの整備が進められている。より使いやすい公開方法に更新することが決定された。
・バーチャルイベントを開催するにあたってのガイドライン（案）が作成された。理事会メンバーに対する照会ののち、公開されることになった。筆者の一人である宮田はこの活動のリーダーを仰せつかっているが、南北アメリカや欧州のメンバーに助けられ、何とか役目を果たすことができそうである。
・ジオシンセティックスに関する認定システムとしてどのようなものがあるのか、IGS がそこにどのような貢献ができるかを検討するタスクフォースが立ち上がることになった。

3.6　技術委員会報告

・各技術委員会から、地域会議での特別セッションやワークショップの開催を企画中であることが報告された。
・安定化委員会では、委員会名にある「stabilization」の定義や範囲について議論が発散し、活動が前進していないという現状が報告された。この件について、IGS 理事会から同委員会に対し、ISO TC221 での定義をベースにした活動を行うべきという見解を文書で伝えることになった。

４．おわりに

IGS も益々多様化し、組織が大きくなっている。学会本来の良さを残しつつ、新しい価値観にも対応できる組織に発展させるべく、微力ながら貢献できればと思っている。